

活動名	高校生災害復興支援ボランティア派遣隊	
ボランティアリーダー育成とボランティア活動の実践(広島と福島の中高生の交流を通して)	団体名	
	地域	広島県広島市
	代表者	サポーター代表 日上 雅義
	支援金額	50万円
活動概要	<p>私たちは、中高生が主体となって被災地復興支援活動を企画し、広島で事前研修を行い、被災地でボランティア活動を行い、帰広後にメディアや集会等を通じて被災地の現状を広く社会に伝える活動を行っています。</p> <p>この度、広島と福島の中高生が協力して被災地支援に取り組むためのボランティアリーダー育成事業を計画しました。具体的には、第6次派遣隊(5月上旬)、広福生徒交流会(8月上旬)の2回、福島県と広島県の派遣隊生徒たちが、それぞれの自然や歴史を学んで交流しながら、被災地支援の取り組み内容を企画し、第7次派遣隊(8月下旬)で、被災地で協働してボランティア活動を行いました。</p> <p>◆実施時期 実施期間:平成26年5月 2日～ 6日 第6次派遣隊 平成26年8月 4日～11日 広福生徒交流会 平成26年8月15日～21日 第7次派遣隊 場所:福島県(南相馬市・いわき市)・広島県(広島市・廿日市市・安芸太田町)</p> <p>◆参加人数 福島の生徒 第6次派遣隊(2名)+広福生徒交流会(9名)+第7次派遣隊(10名) 広島の子生 第6次派遣隊(4名)+広福生徒交流会(12名)+第7次派遣隊(3名) サポーター 第6次派遣隊(4名)+広福生徒交流会(4名)+第7次派遣隊(2名) 参加総人員:50名</p>	



福島の生徒たちと一緒に仮設住宅を訪問
(第6次派遣隊・5月4日)



福島の生徒による折鶴献納
(広福生徒交流会・8月6日)



広島で教わったお好み焼きを福島で
(第7次派遣隊・8月19日)



中高生に人気の「9ジラジ」に出演
(広福生徒交流会・8月7日)

◆実施に伴う効果

- ・広島と福島の生徒が交流することにより、ヒロシマとフクシマが共通に持つ問題点を理解し、互いに協力して、問題を解決していこうとする姿勢を身につけることができました。
- ・福島の高校生が広島メディアに登場したり、ピースキャンプに参加したことで、一般の方々にも、福島の現状を理解してもらうことができました。
- ・広島の高校生の活動が契機となり、福島の高校生どうしの横のつながりができました。また、南相馬市の高校生が団体を設立して、仮設住宅の支援活動を始めることにつながりました。
- ・広島と福島のボランティア団体(喜多方復興支援隊)との連携がより緊密になりました。

◆苦労した点

- ・このたび、第6次派遣隊(5月上旬)・広福生徒交流会(8月上旬)、第7次派遣隊(8下旬)の3回の活動を行いました。活動に必要な経費は約150万円でした。マツダ財団から支援していただいた50万円を除く100万円は、寄付金や生徒たちが街頭募金で集めたものです。これだけの寄付金や募金を集めるには何回もの募金活動が必要で、生徒たちによる計画立案のミーティング時間、研修時間を確保することが難しくなるという現状があります。
- ・結成して2年が経ちましたが、その間に卒業・入学を経て、メンバーも少しずつ入れ替わっています。登録者は約40名いますが、実質、活動に参加する生徒は10名前後です。学校管理下の活動ではないことと、未成年なので保護者の理解が必要なものもあり、人集めには苦労しています。
- ・外部へのPRは、Facebook ページを中心に行っています。現在、1800の「いいね！」があるので、これをベースにして活動案内・報告をしています。また、活動風景が新聞に掲載されたり、ラジオやテレビで放送されたりして、少しずつではありますが、認知度も高まっています。

◆今後の課題・発展の方向性

- ・講師派遣や資金面で、継続して支援していただける団体や企業を開拓する
災害現場や仮設住宅で、充実したボランティア活動を行うためには、事前学習・事前研修で技術を身につけなければなりません。「学ぶ」活動は派遣隊の活動の大切な柱の一つです。募金活動の回数を少し減らして、その分を事前研修に振り分けることで、研修時間を増やしたいと考えています。広島市社会福祉協議会をはじめとして、30を越える団体や企業とつながることができましたが、まだまだ開拓の余地はあると考えています。そのためにも、と考えています。
- ・高校生メンバーを公募し、主体的に活動できるリーダーを育成する
現在、高校生メンバーの確保が急務となっています。私たちの活動は、学校の管理下ではなく、メンバーはそれぞれ自由意志で参加しています。人数を集めるのは大変ですが、参加している生徒の意識はとて高く、ボランティア・スピリットを感じさせてくれます。これまでは友達の友達という、口コミで参加する生徒が多かったのですが、今後は公募をして生徒を集め、生徒主体で計画を立案・実行するという、ボランティア・リーダーを育てるシステムを作り上げていきたいと考えています。
- ・派遣隊の公式サイトを開設する
広報活動の当面の目標は、公式サイトを開設することです。活動計画・案内を掲載したり、活動報告書のライブラリを作成したりして、これまで以上に、皆さんに私たちの活動について理解していただきたいと考えています。そして、そのような活動が、被災地の現状を伝える活動につながると信じています。

◆活動を終えての感想・意見等

ボランティア活動の意義について、ときどき考えることがあります。「困難に直面する人々を支援するため」「社会貢献できる立派な人材を育成するため」「ボランティア活動を通じて精神的に成長するため」…。どれも意味では正しいのでしょう。しかし、次の生徒の感想を読んだ時、本当のボランティア活動の意義が見えてきたような気がします。

「私は現在、派遣隊の一員として、8月20日に土砂災害による甚大な被害を受けた広島市で、泥だしの作業やボランティアセンターでのお好み焼きの炊き出しのボランティア活動をしている。交流した福島の中高生も災害後に福島で中心となって募金活動をしてくれていた。

私は福島で募金活動をしてくれた生徒に「募金活動してくれて、ありがとう。」と連絡をした。すると、「いえいえ、いつも支援してもらっているの。今度は僕らの出番ですよ。」とあたたかい言葉が返ってきた。

私はこのやりとりの中で、ボランティアで育まれた、双方の思いやりの絆を感じた。私はこのボランティアを通して、たくさんの人達と活動していくうちに、他人を思いやって行動できるようになったと感じる。夏休みにこの広福生徒交流会が成功できたのも、派遣隊に携わり、また支援してくださっているすべての方々のおかげだと思う。

土砂災害から約2か月が過ぎたが、復興にはまだまだ時間と力が必要だと感じる。私はこれからの活動もこういった方々への感謝の気持ちを忘れずに復興に少しでも貢献できるように活動していきたい。(竹光一登)

私たちは、このようなボランティア・スピリットのある生徒が活躍できる場を提供するため、サポートを続けていきたいと考えています。